

「学習の3段階理論」とは

—「理解」「定着」「応用」で学力の大幅向上を図ろう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今朝の「開倫塾の時間」は、どのようにしたら学力がつくか・学力を確実に上げるためにはどうしたらよいかについて、また、今ちょうど多くの学校で定期テストが実施されていますので、どのようにしたら定期テストでよい点数が取れるのかについて少しお話をさせていただきます。
私は、学力を上げるためには学習を3つに分けるとよいと思います。1つは「これはこういうことなのか」と納得し、よく「理解」すること、2つ目はそれをスミからスミまで正確に身に付ける、「定着」させること、3つ目はそれを「応用」してよい点数、合格点を取ること、さらには社会で役立てることです。私たちはこれを「学習の3段階理論」として、開倫塾の塾生の皆様にお勧めしています。また、この放送をお聴きの皆様には、長年、このお話を聞いていただいています。
3. そこで、今回はまず最初に、「学習の3段階理論」の「学習」について少しお話をします。学習というのはどのような意味かといいますと、「学ぶ」という意味と「習う」という意味があります。学習の「学」は学ぶという字で、「習」は習うという字ですよね。ですから、「学ぶ」ということと「習う」ということの2つに分けたほうが興味深いと思います。「学ぶ」というのは、「これはこういうことなのか」とよく「理解」することだと私は思います。英語でいうと study にあたりますね。ものごとの本質とは何か・そこに書いてあることはどのようなことなのかをよく理解することが「学ぶ」だと思います。そして、学ぶときには辞書がとても役に立ちます。そこに書いてあることや先生方がお話になることのことばの意味がわからないと、「これはこういうことなのか」とよく「理解」できませんので、わからないことばが出てきたら辞書を使ってよく調べること、これは1つの勉強の仕方かもしれませんね。
4. 次に、「習う」というのは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを何回も何回も繰り返し勉強していただいて、できればスミからスミまで正確に自分のものとして身に付けることだと私は思います。少し難しい言葉ですが、「定着」させることだと思います。これは英語でいうと「learn」ですね。先ほどの「学ぶ・study」はものごとの本質とは何かを理解することで、「learn」は身に付けることだと思います。つまり、「学習」には2つの意味があって、「うんなるほど」と意味がよくわかること・study という意味と、「一度うんなるほど」と理解したことを身に付けること・「定着」させること・learn という意味があると思います。できればこの2つを明確に区別して、中間テストや期末テスト、色々な実力テスト、学校の勉強に役立てていただきたいと思います。繰り返しになりますが、「学ぶ」について一番大事なことは、学校の授業中に「うんなるほど」とよくわ

かることです。また、「習う」で一番大事なことは、「学んだこと」をすべてスミからスミまでしっかりと身に付けること、「定着」させることです。

5. もう少し具体的にこの「定着」についてお話します。テストでよい点数を取るためには一度理解したことを身に付けること、「定着」させることが大事で、この「定着」には3つの方法があります。1つは、声を出して読むことで、これを「音読」といいます。練習ですから何回も何回も繰り返し繰り返しスラスラ、スラスラ学校の教科書やノートを読んだり、学校から与えられる色々な教材を繰り返し繰り返し読んでスラスラ、スラスラ読めるようにすること。このスラスラ、スラスラ読めることが大事で、スラスラ、スラスラ読めるようになるまで繰り返し繰り返し読むと、「理解」したことが身に付きます。すべて覚えてみようということでもよいのですが、覚えようと思ってもなかなか覚えられません。しかし、読むだけでしたら誰でもできますので、スラスラ、スラスラ読めるようになるまで読んでみて下さい。お願い致します。

6. また、一度よく読めるようになったことばで書くのが難しいものについては、「定着」の2つ目の方法として「書き取り練習」をしたほうがよいですね。「読み・書き・そろばん」とよくいいますが、その2番目の「書き取り練習」をしたほうがよいと思います。何回ぐらい書いたらよいかと、書けるようになるまで書くことです。どのような文字で書いたらよいかと、いいますと、「楷書」という教科書に書いてある書体で書くと、誰でも読めるような字になると思います。また、文字は「書き順」に注意しながら書くとよいと思います。テストでよい点数を取るときポイントは、重要なことばについての定義・「○○は△△だ」ということばの意味を何も見ないで正確に言えて、できれば楷書で書けるようにすることです。これから中間テストや期末テストを受ける方がたくさんいると思いますので、ぜひやってみて下さい。必ずよい点数が取れ、また、一生忘れません。

7. 「定着」の3つ目は「計算練習」です。なぜそのような答えになるのかがよく「理解」できた問題については、できれば問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で答えが出るようになればもっとよいですね。一度やった教科書の問題や学校から配られた計算問題がたくさん出ている数学の問題集・ワークを、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で答えが出るまでにするとよいと思います。そうすると、易しい問題はパッパッパッと答えが出てすぐに終わってしまいますので、時間が少しあまります。そのあまった時間で難しい問題を解く、これが余裕というものです。この余裕をつくるために計算練習・問題練習を徹底的にしたほうがよいと思います。

8. 私は、この音読練習と書き取り練習、計算・問題練習の3つの練習を「定着のための3大練習」と名づけました。慶應義塾の塾長であられた小泉信三先生のおっしゃるように「練習は不可能を可能にする」と思いますので、「定着のための3大練習」をして学力を定着させていただければ、よい点数を取ることが不可能であると考えていた人も100点満点が取れるようになります。「定着のための3大練習」を徹底的に行えば、定期テストで必ずよい点数が取れると思います。ぜひ頑張ってやっていただければと思います。お子様をお持ちのご家族の皆様は、このお話を学校から帰って来たらぜひお子様にお伝えしていただければ有難いなと思います。

— 2012年12月27日校正 林明夫 —